

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20404017

研究課題名（和文） 近代的な都市づくりを目指した「日本租界」の都市空間構成の実態調査

研究課題名（英文） Investigation of Actual Conditions on City Space Composition in Japanese Concessions that Aimed at Modern City Construction

研究代表者

趙 世晨 (SHICHEN ZHAO)

九州大学・大学院人間環境学研究院・准教授

研究者番号：80304848

研究成果の概要（和文）：本研究は、かつて中国に存在した5つの「日本租界」を対象に、当時の外務省の外交記録等の史料を解読し、租界設立同時の情報を把握した。また、現地の協力者と共同で総合調査を実施し、日本租界の都市空間の構成及びその変容を明らかにした。さらに街区の構成、建築物の配置等を計測調査し、都市計画史を理論的に評価・分析するために、日本租界に関する空間情報のデータベースを構築した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the feature of urban space of Japanese concessions in China. Main methods of this study are diplomatic historical materials and field investigation. We clarified development and situation of present Japanese concessions. Some buildings remain with the street as the axis of the city in Tianjin, and the street network has been hardly changed in Hankou though many of buildings have been renewed. On the other side, the street network and the building are completely changed, and a part of building remains in Hangzhou and Suzhou.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2008年度 | 2,000,000 | 600,000 | 2,600,000 |
| 2009年度 | 1,900,000 | 570,000 | 2,470,000 |
| 2010年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 5,300,000 | 1,590,000 | 6,890,000 |

研究分野：工学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：日本租界、空間構成、都市変遷、外交資料、天津、漢口、杭州、蘇州

1. 研究開始当初の背景

かつて東アジアの諸都市には、数多くの日本人居留地が存在した。この「居留地」には、土地の租借方法によって「租借地」と「租界」の2種類がある。両者の大きな違いは、①土地租借期限の有無、②軍事利用可能か否か、③規模の大きさ、の3つである。「租借地」は土地租借期限が設けられており、軍事利用も可能で、規模が大きい（概ね数100平方キロ）。例えば、中国の大連や旅順、韓国の釜山等はいずれも「租借地」であった。これまで、これらの「租借地」を対象とした研究が数多く発表されている。「租借地」の形成や

都市空間の特質、または建築様式の特徴が明らかにされており、「租借地」の存在がアジア近代諸都市の形成に大きな役割を果たしたと評価されている。

しかし、「租界」は中国と朝鮮にしか存在しておらず、規模も小さく（概ね数十～数百ha）、これまでの都市研究では、殆ど取り上げられていなかった。日本国内では、旧「日本租界」に関する研究書や建築・都市の図集もない。

一方、租界の設定国は自国による行政運営権が獲得できる上、土地の租借期限が設けられていないため、長期的の視点に立って居る

民のニーズに合わせた都市づくりが出来た。日本租界も例外なく、自国の建築家や都市計画家によって、設立当時の設計技術と計画理念に基づいて造られたのである。つまり、旧「日本租界」は、わが国の都市計画及び都市形成史を評価分析するための貴重な素材でもある。

2. 研究の目的

本研究は、かつて中国に存在した「日本租界」を対象に、現地の協力者と共同で総合調査を実施し、日本租界の都市空間の構成及びその変容を明らかにし、街路・街区の構成、建築物の配置、歴史的建築の計測調査を行い、日本租界の都市空間情報に関するデータベースを作成することによって、今後、わが国の都市計画史を理論的に評価・分析するための資料・情報の提供に寄与することを目的とする。

3. 研究の方法

日本租界（天津、杭州、蘇州、漢口、重慶）を訪問し、フィールド調査（空間の計測、道路幅の計測、写真撮影等、建物用途、歩行者流）による定量データの収集、ヒアリング調査（大学等の研究者や各行政当局へのヒアリング）による定性データの収集、文献収集調査（各都市の歴史的な地図類の収集、外交資料館所蔵の外交資料の収集）などを実施した。また、空間情報、文字情報、画像情報に関するデータベースを構築した。

4. 研究成果

(1) 天津の日本租界による都市軸の形成

天津の日本租界においては、現在でもその街区形状、街路、建物等、当時の姿を留めているものが多い。特に街区ごとまとまって現存しているため、当時の街並みが残っており非常に貴重である。これは一つに、租界開設当時、泥沼地であった土地を埋め立てたことによって、中国人が居住していた中心市街地と日本以外の外国租界地とをつなぐ交通、商業の都市軸を作ったことと、さらにそれに交わる公共施設の軸といった、明確な都市基盤を築いたことが大きい。これによって、日本租界は、現在でも天津の重要な都市骨格として機能し、現存し続けているのである。

(2) 杭州の「五館政策」の失敗

杭州は中国八大古都の一つで、1895年に結ばれた下関条約によって杭州市に日本租界が設置されたが、他国に比べて租界の開設時期が遅れたため、立地場所は市街地から遠く、また当時の「五館政策」の失敗によって経済的にも発展せず、長期的に耐えうる都市の骨格を造りえなかったため、当時の空間構成や形態はほとんど都市再開発によって改変されている。

(3) 漢口日本租界の街路空間構成

漢口の日本租界は旧ドイツ租界に隣接しているが、街区の大きさや街路の幅はドイツ租界に比べて小さく、街路空間は変化に富

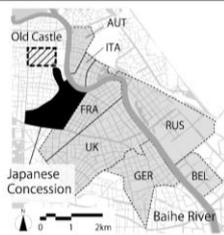
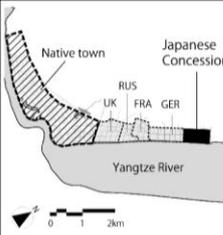
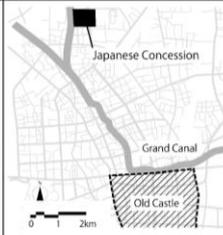
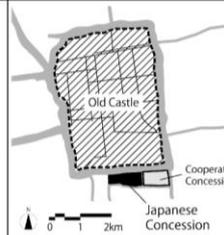
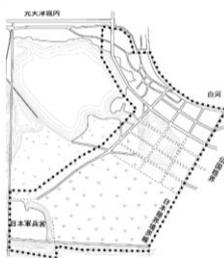
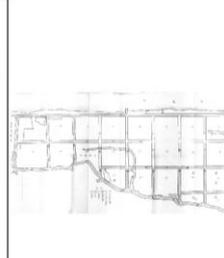
| | Tianjin | Hankou | Hangzhou | Suzhou |
|------------------------|---|---|--|---|
| Area (Expand) | 100 ha (124 ha) | 16.5 ha (62 ha) | 48 ha | 50 ha |
| Establish | 1898 | 1898 | 1895 | 1897 |
| Return | 1943 | 1943 | 1943 | 1943 |
| Location of Concession |  |  |  |  |
| | - Near to Old Castle - Bounded to big street | - Far from native town - Near to new railway | - Far from Old Castle - No roads or buildings | - Out of Old Castle - No roads or buildings |
| Frist Planning |  |  |  |  |
| | 1900 | 1907 | 1898 | 1897 |

図1 日本租界の立地と計画

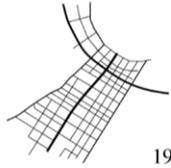
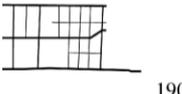
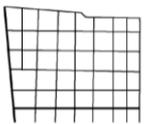
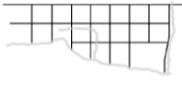
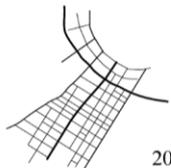
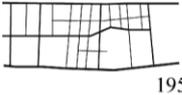
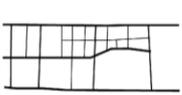
| | Tianjin | Hankou | Hangzhou | Suzhou |
|--|--|--|---|--|
| Transition of Road Network (1897-2008) |  1900 |  1905 |  1898 |  1897 |
| |  1940 |  1907 |  1908 |  1901 |
| |  2008 |  1951 |  2008 |  2008 |
| | |  2008 | | |

図2 日本租界の道路網形態の変遷

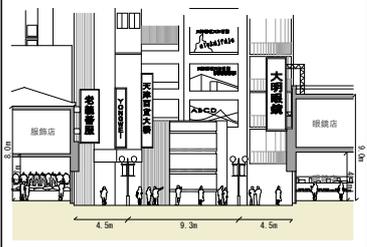
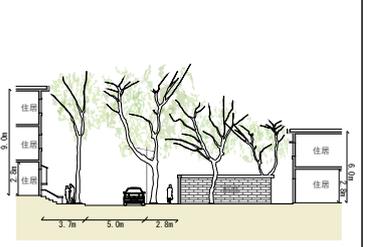
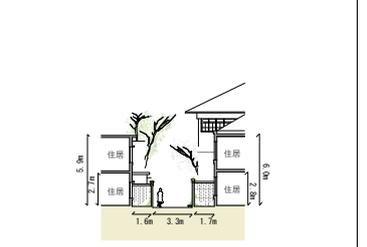
| | 街路番号161 | 街路番号230 | 街路番号118 |
|---------------------|---|---|--|
| 建物配置調査 |  |  |  |
| 建物等の実測 |  |  |  |
| パース (最終3D CGIによる再現) |  |  |  |
| 解説 | 日本租界当時の建物を改装して店舗として利用している例が多い。特に百貨大楼、人民大楼などの1920年代から30年代にかけて建てられたデパートで、雑踏をきわめる路地を構成する戦前建設の建築群は、かつての旭街の様子を今に伝えている。 | 海光寺には当時「日本軍兵營」が置かれていた。当時のレンガ造の建物が多く残っており、当時の兵舎ではないかと推測される。これは現在でも集合住宅として使われ続けており、静かで落ち着いた住宅街となっていた。 | この辺りには住宅が集中しており、その多くは当時の建物をそのまま使っている。細い路地が入り組んでいるのが特徴的で、沿道建物は主に二階建てのレンガ造で統一されており、小さいながらも前庭を持つ建物が立ち並んでいる。 |

図3 日本租界に関するデータベースのイメージ

だつくりとなっている。租界当時の建築物の多くは更新されているが、街区や街路のスケールは維持されており、日本租界は現在の都市空間の形成に大きな影響を与えていることが確認された。

(4) 日本租界の発展

下関条約が結ばれた後、厦門や沙市等を含む中国の多くの都市で租界開設の特権を得ていたが、実際に開設され、正式に日本租界を名乗ったのは、重慶、天津、蘇州、杭州、

漢口の5地であった。その数はイギリス租界に次いで多かったが、しかし日本租界の殆どが当時の中国人が居住している市街地から遠く離れているため、日本政府の期待通りの発展を遂げることはなかった。

(5)現代の都市形成に対する影響

天津の日本租界の造営は、20世紀初頭により日本領事館直属の専管居留地事務所が担当し、またその後東京建物株式会社の招聘により建築家真水英夫の指導を受けて、家屋の造成を行ったため、5つの日本租界の中でも最も完成度が高く、さらに当時のフランス租界と旧城の中間に位置する地の利もあって、当時はもちろん、現在でも天津の中心市街地の形成に大きな影響を与えていることがわかった。

(6)近代都市文化遺産としての可能性

天津以外の日本租界は近年の都市再開発によって更新されているが、程度の差があるものの、租界の空間構成が維持されており、歴史的建築物は重要文化財として指定されているケースも多い。これらは今後、中国の近代都市文化遺産として「日本租界」の再評価のための貴重な素材となることを指摘した。

(7)データベースの構築

現地調査及び史料・文献を整理し、日本租界に関する文字情報（租界設立背景、立地状況等）、都市と建築の空間情報（配置図、建物の立面、街並みのスケッチ等）を総合したデータベースを構築した。

本研究は現地調査結果の分析により、各都市日本租界の成立と発展、そして租界返還後から現在に至る都市的な変容を総合的に把握した。これまでの調査実績を踏まえながら、日本租界に関する空間情報のデータベースを補完し、鳥瞰とアイレベルの双方をカバーできる3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)による「日本租界」の再現を行うことによって、今後、日中両国における近代都市史を理論的に分析するための資料・情報を提供し、都市文化遺産としての「日本租界」の再評価を行う予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① Daqiang Wang, Shichen Zhao, Qingyu Gong, Yuki Ogawa: Planning Strategy of Integrated Coastal Zone Management in Bohai Bay Area, China, Pro-

ceedings of the 8th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 査読有, CD-ROM, 2010

- ② Dachang Yuan, Shichen Zhao, Jia Liu: Superficial Analysis on Tianjin New City Planning in Transition Period, Proceedings of the 7th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, 査読有, Vol.7, pp.51-62, 2010
- ③ Shichen ZHAO, Zhuoran LI: A Study on Moving Potential in the Urban Area by Analyzing the Road Network, The 6th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, 査読有, Vol.6, pp.115-122, 2008

[学会発表] (計4件)

- ① 小川勇樹、趙世晨、萩島哲：3DCGによる都市風景画に描かれたピルナの都市景観の再現に関する研究、日本建築学会、2010年9月10日、富山大学
- ② 永松博晶、趙世晨、都市景観における色彩の構成に関する定量的分析、日本建築学会九州支部研究報告、2010年3月7日、長崎大学
- ③ 福原章夫、栗原崇宏、趙世晨、漢口日本租界における都市形成とその変遷—ドイツ租界との比較を基に—、日本建築学会九州支部研究報告、2009年3月8日、琉球大学
- ④ 小川勇樹、趙世晨：ネットワーク解析から見た視点場と視対象の特徴、日本建築学会、2008年9月19日、広島大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

趙世晨 (SHICHEN ZHAO)
九州大学・大学院人間環境学研究院・准教授
研究者番号：80304848

(2) 連携研究者

内田 晃 (UCHIDA AKIRA)
北九州市立大学・都市政策研究所・准教授
研究者番号：60438299
日高 圭一郎 (HIDAKA KEIICHIRO)
九州産業大学・工学部・教授
研究者番号：80320141
黒瀬 重幸 (KUROSE SHIGEYUKI)
福岡大学・工学部・教授
研究者番号：20153413